

## 教科目名 廃棄物処理工学 (Solid Waste Disposal Engineering)

専攻名・学年 : 全専攻 2 年 (教育プログラム 第 4 学年 ○科目)

単位数など : 選択 2 単位 (後期 1 コマ, 授業時間 23.25 時間)

担当教員 : 佐野博昭

授業の概要			
<p>人類の経済活動にともなって排出されるごみは、その処理・処分の能力を超えて増え続けており、このような大量生産、大量消費、大量廃棄というわが国社会の在り方が地球環境に大きな負荷をかけている。このため、こうした社会の在り方を見直し、物質循環を基調とした循環型社会を構築することが早急に求められている。そこで、廃棄物を体系的に捉えた廃棄物処理工学の基礎として、まず、廃棄物の種類や歴史、現代社会の廃棄物の現状を理解できるようにする。次に、発生した廃棄物の収集・運搬に関するプロセスを理解する。そして、最後に、循環型社会の形成に向けた取組事例を学ぶ。</p>			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (E2), JABEE 目標 (d2a)	
<p>(1) 廃棄物の歴史的な経緯を説明できる。(定期試験)            (2) 一般廃棄物、産業廃棄物に関連した諸事項を説明できる。(定期試験)            (3) 廃棄物の処理・処分システムが説明できる。(定期試験)            (4) 循環型社会形成の必要性が理解できる。(定期試験)</p>			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	第 1 章 廃棄物処理の状況 1.1 一般廃棄物、産業廃棄物の処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>○廃棄物が抱えている諸問題を認識するとともに、それらの対応が理解できる。</li> <li>○廃棄物処理の歴史が理解できる。</li> <li>○一般廃棄物、産業廃棄物の種類、発生状況や処理状況について説明できる。</li> <li>○発生した廃棄物の収集・運搬に関するプロセスが説明できる。</li> <li>○施設見学を通して廃棄物の処理・処分の現状が理解できる。</li> </ul>	【理解の度合い】
2	第 2 章 廃棄物の概要		
3	2.1 廃棄物処理の歴史		
4	2.2 廃棄物の発生と問題		
5	第 3 章 廃棄物処理・処分システム		
6, 7	3.1 収集・運搬		
	3.2 中間処理		
8	施設見学 I (見学先の都合により変更の可能性あり)		
8	後期中間試験		【試験の点数】 点
9	後期中間試験の解答と解説	<ul style="list-style-type: none"> <li>○わからなかった部分を理解する。</li> <li>○ごみの燃焼過程を説明できる。</li> <li>○ごみの最終処分の現状と課題を説明できる。</li> <li>○各種リサイクル法が説明できる。</li> <li>○施設見学を通して廃棄物処理・処分の現状が理解できる。</li> </ul>	【理解の度合い】
10	3.3 減量化のための焼却技術		
11, 12	3.4 エネルギー回収		
13, 14	第 4 章 循環型社会の形成に向けた取組		
	4.1 循環型社会の形成に向けた国の取組		
15	施設見学 II (見学先の都合により変更の可能性あり)		
15	後期期末試験		【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	関連資料としてプリントを配付するので、整理してファイリングしておくことよい。授業を聞きながら大事な点を書き込んだりするのに使用する。		【総合達成度】
教科書	松藤敏彦ら、「リサイクル・適正処分のための廃棄物工学の基礎知識」、技報堂出版。		
参考図書	田中 勝、「廃棄物学概論」、丸善。 志垣政信編著、「絵とき 廃棄物の焼却技術」、オーム社。		
自学上の注意	受講前に必ず前回の講義内容を復習し、要点をまとめ整理する。また、新聞などで廃棄物に関する記事があったら積極的に目を通す。		
関連科目	環境保全工学 (専攻科)		
総合評価	達成目標の(1)～(4)について 2 回の試験で評価する。 総合評価 = (2 回の定期試験の平均) 総合評価が 60 点以上を合格とする。なお、再試験は原則として実施しない。		